

課題対応取組み報告書

名称	住之江区地域包括支援センター				
提出日	令和	5	年	6	月 26 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 認知症高齢者等の支援 ☐ その他 ()	☐ 社会資源の創設 (居場所づくり等) ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	地域と介護サービス事業所のつながりづくり ～相互理解とそれぞれの強みを活かした連携に向けて～	
地域ケア会議から 見えてきた課題	○地域ケア会議 (個別ケース検討) で最も多い検討課題は「支援者間での情報・支援方針の共有」であり、認知症の人や支援拒否のケースなどでは、地域と支援者や関係機関同士がどのように連携し、見守りをしていくかが課題となっている。 ○地域ケア会議 (自立支援型ケアマネジメント検討会議) では、自立支援・重度化防止に資するケアマネジメントにおいて地域の社会資源の活用・不足が課題となっている。	
対象	地域関係者、介護事業者	
地域特性	地域ケア会議の中で地域関係者より「介護事業者の顔が見えにくい」との声がありH27年度より取り組んできたが、コロナ禍で中止となる地域活動も多く、新設の事業所も増えたことで担当ケースが居住する地域の活動や地域関係者のことをあまり知らないケアマネジャーも多い。 地域活動の活用や民生委員・地域ネットワーク推進員等との連携により、高齢者の自立支援や見守り等がさらに進んでいくと考えられる。	
活動目標	○コロナ禍の中で地域関係者の活動状況が変化し、サービス事業所の新設・閉鎖も生じているため、それぞれの活動や地域の社会資源についてあらためて共有し、高齢者の自立支援・QOL向上につながるケアマネジメントや地域での見守り活動等における円滑な連携につなげる。	
活動内容 (具体的取組み)	○住之江区内の介護保険サービス事業所の協力を得て、区内全域の事業所マップを作成した。区内のみならず区外の一部委託先の事業所にも配布し、ケアマネジャーや地域関係者に活用してもらうことで連携の円滑化を図った。 ○生活支援コーディネーター等が把握した社会資源の情報の活用支援について、生活支援体制整備事業がR5年度～あらためて社会資源の情報収集・冊子づくりに取り組む予定であり、令和4年度は実施できなかったが、地域関係者とケアマネジャーの交流会を開催し社会資源の共有・検討を行う予定。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	○事業所マップについてはR5.4～配布を開始したところだが、地域関係者やケアマネジャーからも「地域ごとの地図になっており分かりやすい」との声をいただいている。住之江区内の全事業所の情報を記載しているため、各事業所の情報は住所・電話・FAX番号のみと限られているが、ハートページの情報と併せて利用者との相談に活用できるものと考えている。	
今後の課題	○自立支援・重度化防止に資するケアマネジメントや、専門職だけでは対応できない日常的な見守り体制の構築など、多様な社会資源の活用や地域関係者との連携がケアマネジメントにとって重要になっているが、コロナ禍の中で地域活動の中止や事業所の閉鎖・新設等、状況が変化し、あらためて関係づくりをすすめていく必要がある。	

※以下は、区運営協議会事務局にて記入	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和5年7月20日(木)
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☐ 浸透性・拡張性 ☐ 専門性 ☒ 独自性
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、区 地域包括支援センター運営協議 会からの意見等を記載。	長年コツコツ続けている事業。 ハートページに載っていない事業所も冊子に載せている工夫がある。 自己評価通りで良い

課題対応取組み報告書

名称	さきしま地域包括支援センター
提出日	令和 5 年 6 月 26 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 認知症高齢者等の支援 ☐ その他 ()	☐ 社会資源の創設 (居場所づくり等) ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	認知症になっても住みやすい町づくりに向けて	
地域ケア会議から 見えてきた課題	連携を行う中で、専門職の中でも認知症の理解に対する差があり、“専門職の認知症への理解不足”が課題として挙げた。	
対象	地域の専門職および地域住民、学生	
地域特性	海に囲まれた人工島であり、医療や介護の資源は限られている。 住宅は全て集合住宅であり、各集合住宅で意識や取り組みに差があるも、各棟で独自の取り組みを行っている事も多い。	
活動目標	地域や学生向けの認知症に関する取組みは定期的に開催が可能になっており、令和4年度もより多くの方が認知症に対する理解を深めていただけるよう、取組みを継続していく。 令和4年度は専門職に向けての認知症の勉強会を開催し、実際に認知症の支援を行っている方々のスキルアップが図れるような取組みを行っていく。	
活動内容 (具体的取組み)	【認知症サポーター養成講座】 令和4年度は認知症サポーター養成講座やスキルアップ研修、サポーターの集いを地域向けに15回開催。そのうち学校関係は中学校で1回、大学で1回開催。中学校では森ノ宮医療大学と協力し、昨年度のフォローアップと言う形で開催、より理解が深まるよう工夫した。 【地域との連携】 海の町では再度見守りに関するアンケートへの協力、太陽の町では森ノ宮医療大学と協力して行う見守り活動への話し合いへの参加を行っている。 【専門職との連携】 令和4年度は地域ケア会議を開催し地域の課題を共有、対応についての検討を行った。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・地域や学生向けの認知症に関する取組みは定期的に開催が可能になっており、令和4年度もより多くの方が認知症に対する理解を深め、相談窓口として包括支援センターを認知してもらえたと思う。 ・地域の見守り活動に協力できた。	
今後の課題	・学生や地域住民に対し、認知症サポーター養成講座等の開催を継続する。 ・専門職に向けてのスキルアップが図れるよう認知症の勉強会等の取り組みが必要。 ・認知症対応型サービス事業者の連絡会立ち上げに協力する。	

※以下は、区運営協議会事務局にて記入

区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和5年7月20日 (木)
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☐ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☐ 独自性
評価できる項目 (特性) についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、区 地域包括支援センター運営協議 会からの意見等を記載。	・大学との連携有、島の中での認知症の対応、このまま継続・浸透ができるとよい。 ・今後の課題について、養成講座もする予定であれば専門性入れて良いのではないかと →事業者の連絡立ち上げも実施しており専門性追加とする。 ・孤立しやすい地域の中で工夫しているので、南港から各地域へノウハウを広めていけばよいのではないかと。

課題対応取組み報告書

名称	住之江区安立・敷津浦地域包括支援センター
提出日	令和 5 年 6 月 24 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☐	地域や専門職とのつながり等	☐	社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐	認知症高齢者等の支援	☒	自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐	その他（		）
活動テーマ	生活不活発病からの脱却 ～健康活動応援プロジェクトの取り組み～			
地域ケア会議から 見えてきた課題	・集団での運動には抵抗がある、又新型コロナウイルス感染症の影響もあり、運動の機会が減り運動機能が低下している住民がいる。 ・ポリファーマシーや低栄養は自立を阻害する大きな原因となるが、意識が低く、又気軽に相談できる環境にない。 ・福祉用具や住宅改修の活用も自立支援に大きな役割を果たすが、一般的に相談はサービスの利用が前提となってしまう。 ・どういった資源があるか、何をすれば良いかわからない。 ・誤った自己トレーニングを行っていてもわからない。 ・徒歩で通える所に体操教室がなかったり、デイサービスやデイケアなどの集団参加に消極的な方が多くみられる。 ・サービス利用に心理抵抗感がある。また介護認定の有無等により、医療サービス、介護保険サービスに繋がっていない方については、自立支援に対する専門的なアプローチを受ける機会がない。			
対象	住之江区安立・敷津浦地域に住む住民			
地域特性	安立地域、敷津浦地域とも徒歩圏内にそれぞれ運動器具が設置されている大きな公園がある。			
活動目標	・地域の住民が、公的なサービスだけでなく、インフォーマルな資源も活用しながら、個々の目標に対し、自身で決めたプログラムに沿って自立支援に向けた活動を実施することができる。 ・薬や栄養、福祉用具、住宅改修について気軽に相談できる環境をつくる。 ・支援者の「自立支援」についての意識向上を図る。			
活動内容 (具体的取組み)	●しきつうら健康ウォーキングの開催 （あったかネットコーディネーター・区役所・区社会福祉協議会・老人保健施設・包括共催） 日にち：令和4年4月14日（木）鶴見緑地公園で春のウォーキング 参加住民12名 日にち：令和4年8月2日（火）歩き方講座 参加住民12名 日にち：令和4年9月30日（木）JR福知山線廃線敷ハイキング 参加住民11名 日にち：令和4年11月18日（金）箕面の滝ハイキング 参加住民11名 日にち：令和5年3月10日（金）天王寺周辺歴史ウォーキング 参加住民14名 ●フレイル予防の勉強会（老人保健施設・地域包括支援センター共催） 日にち：令和4年6月11日（土）健康寿命延伸プログラムの教科書を使った座学（メッツの作成等） ●介護保険サービス外での理学療法士による自宅訪問（アセスメントや運動メニューの提案） ●自立支援型ケアマネジメンやト小会議の開催			
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・介護保険サービス利用以前から理学療法士と関わる事で、利用者の望む暮らしに向けたサービス利用につなげることができた。 ・冊子『健康寿命延伸プログラムの教科書』を活用し、健康や自立支援に向けた考え方、助言、資源などの情報を提供し、住民自らが個々の目標を設定し、それぞれに合ったプログラムを立てることができた。 ・健康ウォーキングの参加者が増えてきている。又楽しみながら歩く機会が増えたという住民の声が多くあった。			
今後の課題	・身体へのアプローチだけでなく、心への働きかけ等意欲向上につなげていけるような取り組みが必要。 ・より幅広い視点でのアプローチができるよう薬剤師や福祉用具、歯科関係機関等とも相談できる仕組みが必要。			

※以下は、区運営協議会事務局にて記入	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和5年7月20日(木)
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☒ 独自性
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、区 地域包括支援センター運営協議 会からの意見等を記載。	・フレイル予防に前向きに取り組んでいる。浸透性も該当とする。

課題対応取組み報告書

名称	住之江区安立・敷津浦地域包括支援センター
提出日	令和 5 年 6 月 24 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 認知症高齢者等の支援 ☐ その他 ()	☐ 社会資源の創設 (居場所づくり等) ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	火災から命を救う消防署との取り組み	
地域ケア会議から 見えてきた課題	認知症等により片付けができず、火災リスクが高い状態になっている住民に対し、片付けることを促しても理解を得られないことが多い。また周囲の住民の不安が強く認知症高齢者への偏見につながっている。	
対象	地域住民・支援者	
地域特性	ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯が多い。また高齢になってからワンルーム集合住宅に引っ越される方が多い。	
活動目標	・火災リスクが高い方のリスクが軽減する。 ・地域住民の火災に対する不安が軽減し、排除しようとする動きがなくなる。	
活動内容 (具体的取組み)	・消防署と連携し、消防隊員による防災講義や相談会を実施した。 ・火災リスクの高い住民に対し、消防隊員と一緒に訪問し、状況の把握や改善案の提案などをおこない、在宅高齢者日常生活用具給付事業につなげた。 ・地域包括支援センターが窓口になり消防につなぐことについてケアマネジャーや地域支援者に周知した。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・消防署の方に講義をしていただいたり、火災リスクの心配がある住民宅に消防署の方が訪問し、助言をおこなっていただき、在宅高齢者日常生活用具給付事業の利用に至るなど、一部の地域住民と消防署が顔の見える関係をつくることができた。	
今後の課題	・消防の方が訪問してくれることや在宅高齢者日常生活用具給付事業等の制度の周知が不十分で浸透していない。 ・在宅高齢者日常生活用具給付事業について該当しない住民がいたり、活用しても火災リスクが0になる事はないので、周囲の不安や偏見がなくなるらないケースもある。	

※以下は、区運営協議会事務局にて記入

区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和5年7月20日(木)
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☐ 継続性 ☐ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☒ 独自性
評価できる項目 (特性) についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、区 地域包括支援センター運営協議会 からの意見等を記載。	・消防署と連携できているのが評価できる。命を守る気付きの活動である。独自性も追加とする。

課題対応取り組み報告書

名称	加賀屋・粉浜地域包括支援センター				
提出日	令和	5	年	6	月 23 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☐ 地域や専門職とのつながり等	☒ 社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐ 認知症高齢者等の支援	☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐ その他（ ）	
活動テーマ	気軽に相談できる場や孤立しない繋がりがづくり	
地域ケア会議から 見えてきた課題	ひとり暮らしであるが、継続して関わる親族や地域住民との関りが薄く、課題が潜在化している。 特に男性については、女性に比べて集いやすい場や活動する場が少なく、孤立しやすい傾向である。	
対象	高齢者を中心とした地域住民	
地域特性	古くからの長屋も多く、隣近居の声かけができていた地域がある一方、集合住宅においては近隣との関りが希薄化している。年々、高齢化率は上昇している。	
活動目標	地域包括支援センター（以下「包括」）広報誌や、町会回覧、掲示板へチラシの貼付等で、地域住民に周知していく。 特に「なんでも相談」についてはスーパーの一角をお借りすることができ、高齢者のみならず広く地域住民に相談窓口を周知できる機会であるため、積極的に周知活動を図る。 ・高齢者のみならず、住民が気軽に立ち寄れる「場」を活動していく。サロン活動については、新たに活動の場の創出の機運が地域に見られるため、立ち上げから実施に向けて、後方支援としての役割として関わっていく。	
活動内容 (具体的取組み)	出張相談会、及び加賀屋・加賀屋東地域における活動は、加賀屋総合相談窓口（以下「ランチ」）と共催にて下記活動に取り組んだ。 《出張相談会》・ダイエー福祉なんでも相談会（10回） ・かもめちゃんカフェ（11回） 《加賀屋地域》・わいわい広場緑木（9回） ・わいわい広場北5（11回） 《加賀屋東地域》・おしゃべり広場中加賀屋（12回） 《粉浜地域》・粉浜げんき広場（19回） 区社会福祉協議会、自治会、民生委員との協働により下記、取り組んだ。 ・U R 団地への全戸配布アンケートの実施 ・U R 団地への取り組み会議（8回） ・U R 団地でのイベント（2回）	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・地域活動の場において、包括広報誌等を配布するなど、包括・ランチの周知を図り、活動の場において相談を受けることがあった。 ・U R 団地への全戸アンケートの結果、つながりや情報を欲しいけれども、どうすればいいのかわからない方がおられることが分かった。イベント開催後には「今までこんなことがなかったのこれからしてほしい」との声が上がり、住民ボランティアの協力も得て、令和5年度においては、住民自らがアイデアを出し地域活動を運営することにつながった。	
今後の課題	・地域住民のニーズや課題に合わせたコミュニティ形成が必要である。そのために、地域住民が考えるニーズや課題を共有する機会をもてるよう、交流の場において意見交換を行い、性別にとらわれず誰もが参加しやすい社会資源を創出する必要がある。	
※以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和5年7月20日(木)	
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☐ 専門性 ☒ 独自性	
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、区 地域包括支援センター運営協議 会からの意見等を記載。	・URの課題に取り組んでいる。ほかの地域の人も知っている。独自性がある。 ・地道に回数を重ねている。継続性も該当とする。	

課題対応取組み報告書

名称	住吉区地域包括支援センター
提出日	令和 5 年 6 月 12 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 社会資源の創設（居場所づくり等） ☐ 認知症高齢者等の支援 ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等 ☐ その他（ ）
活動テーマ	気軽に相談できる地域包括支援センターをめざした出張相談会の実施 助けられる人（高齢者）も参加できる・役割をもつことができる地域へ
地域ケア会議から 見えてきた課題	・支援者はいるが、課題が複合化・多様化しており、解決困難なケースが増えてきている。 ・コロナの影響もあり、特に男性のひとり暮らし高齢者の場合、近隣住民との関係が希薄で、本人からのＳＯＳも発信ができず、認知症等が重度化してから相談にあがる場合がある。 ・閉じこもりがちな未就労の子どもが同居しており、精神疾患が疑われる場合やアルコール依存、ゴミ屋敷問題等、より関係機関の連携、共有が必要なケースが多い。 ・精神疾患が疑われる高齢者の相談が増加している。
対象	地域関係者、地域住民
地域特性	遠里小野地域は、ネットワーク委員会とボランティアによる見守り活動が充実し、毎月定例会議も開催している。 山之内地域は、毎月定例で見守りボランティア会議を開催している。独居高齢者の割合が圏域で一番多い。 刈田南地域は民生委員による見守り活動が古くから行われているが、特に集合住宅の高齢化が課題となっている。 依羅地域は、古い町並みとマンションが立ち並ぶ地域に二分され、賃貸住宅では町会未加入世帯も多い。
活動目標	・おりおのカフェでの出張相談を継続し、気軽に相談できる場づくりや地域包括支援センター（以下「包括」という）の周知を行う。また新たな出張相談の場について検討する。 ・地域で助けられる人、助けられる人に分かれることなく、助けられる人も参加できる役割を持てる場づくり、共助の仕組みづくりを目指し、まずはきっかけを作っていく。 ・包括だけでなく、生活支援コーディネーターやコミュニティソーシャルワーカー、区社会福祉協議会等と連携し、常駐支援相談員連絡会やネットワーク委員会の会議を通じ、互助・共助のイメージを共有していく。
活動内容 (具体的取組み)	・地域との情報共有等は民生委員会への参加や見守りボランティア会議、常駐支援相談員連絡会への参加などで一定できており、オレンジカフェやおりおのカフェなど、気軽に立ち寄れる場での出張相談会は継続できている。 ・『健康寿命を延ばそう（座ってできる体操・頭の体操）勉強会』や、各地域で『助けられ上手のすすめ（＋感染症予防、お化粧品で介護予防）勉強会』を開催し、出張相談を行った。
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・大依羅神社を借りての勉強会・出張相談会では、普段地域活動等に参加されていない方の参加も多かった。 ・助けられ上手については、これまでとは違った視点を届けことができ、参加者からも今後意識して実行していきたいという声が多かった。 ・依羅地域では、地域関係者と専門職が同じイメージを持って支援をしていけるように、民生委員とケアマネジャー、ヘルパーと合同で妄想のある人への対応についての勉強会を開催した。
今後の課題	・4包括で郵便局で出張相談も行ったが、今後も町会に加入していない方へのアプローチも含めて、郵便局や薬局での出張相談や相談窓口の周知に努めていく。 ・地域でお互いが支え合っていけるよう、勉強会や出張相談などを通じて区民に地域情報を提供し、ケアマネジャー向けにも地域情報の提供を行い、地域活動への理解を深めていく。 ・地域とケアマネジャー合同での勉強会や交流会を開催し、地域関係者と専門職が顔の見える関係を作っていく。 ・ボランティアの入れ替わりがあるため、地域支援者と常に関係性が取れるよう、継続した取組みを行っていく。
※以下は、区運営協議会事務局にて記入	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和 5年 7月 14日（金）
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☒ 独自性
評価できる項目（特性） についてのコメント	・「助けられ上手」という言葉に助けられる。助けられる側の視点に立った支援を続けてほしい。住民同士の支えあいを深める取り組みにつながっている。 ・地域の方はじめ様々な人との顔の見える関係作りをすすめてほしい。
* 今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	

課題対応取組み報告書

名称	住吉区北地域包括支援センター					
提出日	2023	年	6	月	12	日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☐ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 認知症高齢者等の支援 ☐ その他 ()	☐ 社会資源の創設 (居場所づくり等) ☒ 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	高齢者やその家族、地域住民へ介護や福祉に関する情報を伝える	
地域ケア会議から 見えてきた課題	・親の介護者になる可能性が高まる50歳代前後の現役世代は、就労や子育ての卒業などにより、地域でのつながりが希薄になりがちで、介護や福祉等の情報を得にくい環境に置かれている方が多い。親の介護について、親族の理解が得られにくく孤立しがちである。コロナ禍で同窓会がないなど、「親の介護について」という悩みなどが話題になりにくいこともコロナ禍ならではの要因と考えられる。 ・成年後見制度の必要性や魅力について伝わりにくく、利用につながらない。 ・障がいサービスの併用において、支援者がそれぞれ他分野に対する理解が乏しい。 ・高齢者本人が、自身の最期について意思決定を考える機会が乏しい。またそのための介護や看取りに関する情報が得られにくく、イメージを持つことが難しい。 ・要支援者の主疾患として、生活習慣病が起因する循環器系疾患が多いなど、食事習慣と運動習慣の関連が大きいと考えるが、食事習慣についてアセスメントの中で深める機会が少ない。 ・高齢者、特に男性が地域の中で活動に参加することが難しく、ひとり暮らしで地域の中で孤立しているケースがある。 ・コロナ禍で精神不安を訴えたり、高齢になるにつれ不安を強めることがあるが、制度やサービスにつながる事が難しく、対応に苦慮することがある。	
対象	圏域内の高齢者 (コロナ禍で人との接触機会が少ない生活が続いており、オンラインツールも十分に使用が難しく、様々な情報を得る手段が少なくなっている)	
地域特性	・住吉地域は、地域連合が27町会で構成された大所帯であることが特徴的である。住民は新旧混合で市営住宅も多いが、帝塚山や万代池周辺の高級住宅街も圏域に含み、所得層も幅広い。大阪急性期総合医療センターおよび関連施設、福祉事業所も多い。 ・東粉浜地域には戦火を逃れた古い家や長屋が立ち並び、世代間で住み続けている住民も多く、市内屈指の地域力の高さも特徴的。南海電鉄、阪堺線など天王寺や難波へのアクセスも便利。商店街も賑やかさを保ち、活気がある。通所、入所型の福祉施設は殆どない。 ・長居地域の一部のみも圏域に入るが、文化住宅やひとり暮らし向けアパート、市営住宅が大半で「ひとり暮らし、生活保護、何らかの生活課題」というキーワードが多く見られる。	
活動目標	・各地域ごとの拠点を活用した情報発信、情報集約の機能を強化し、地域住民がより身近な関係、身近な場所で情報が得られる。 ・昨年開催したぶち健康まつりを継続して開催し、地域内の事業所と地域の拠点、地域住民がつながる場を作る。 ・各小地域において、スマートフォンに関連した講座、相談会を開催する。 ・SNS等のオンラインツールを活用して情報発信を継続する。	
活動内容 (具体的取組み)	○小地域ごとにぶち健康まつりを開催する。 以下、コンテンツと協力依頼する団体 ・3会場共通 スマートフォン相談窓口 →生活支援コーディネーターの協力のもと大学生ボランティア等に依頼 ・各会場それぞれで組み合わせる 聴力相談/検査/講演 →補助員関連事業所 配食弁当体験/栄養に関する講座 →配食業者/食生活改善推進員協議会 医療相談/お薬相談 →小地域内事業所 (訪問看護ステーション、薬局等) 地域との協働について 民生委員や町会を中心に、小地域ごとの事情に合わせて、会場利用や住民に向けた周知等について協力を依頼する。 ○オンラインツールを活用した情報発信については、各事業の報告等を中心に継続する。	

成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	東粉浜会館：体操、車いす体験、弁当体験、薬剤師相談会、聴力検査 万領会館：体操、栄養講座、インボディ、薬剤師相談会、聴力検査 住吉総合福祉センター：聴力講座、弁当体験、血管・骨密度測定、看護師相談会、認知症相談会 各会場で上記の内容を取り組みました。来場者計70名で、全員に基本チェックリストを実施しました。 当日は、チェックリストを片手に各ブースに行き、相談助言を受ける方がいれば、聴力検査をうけたという方などそれぞれ関心の高いブースから回られていました。 スマートフォン相談窓口に立ち寄る高齢者もあり、ニーズがあることを感じ取れました。
今後の課題	2023年5月以降、様々な社会活動が再開され始めています。 住吉区でも同様に情報を得られる機会は増えてくると考えています。 上記のような活動は、担当圏域ならではの情報発信の機会として、より地域の特性を意識したプログラムを検討していきます。 また、テーマである情報を届けるという面では、上記のイベントに限らず、日常業務の中で、圏域内のいきいき百歳体操、ふれあい喫茶などの地域活動に伺い、情報発信したり、地域包括支援センター独自の情報誌を配布したり、SNSなどのオンラインツールを活用する等、総合的に取り組みを進めていきたいと考えています。
※以下は、区運営協議会事務局にて記入	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和 5年 7月 14日 (金)
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☒ 独自性
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取り組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	・スマホや難聴といった性差なく興味を引くテーマを選択したことが参加者数の増加にもつながったと思う。 ・ぶち健康まつりは高齢者の集まりやすい内容となり、スマートフォン相談窓口は参加しやすいと思われる。情報発信の工夫がうかがえる。 ・スマートフォンの利用で別居の家族との画像を使ったやり取りができた、安否確認の方法としても使えるのではないかと感じた。

課題対応取組み報告書

名称	住吉区東地域包括支援センター						
提出日	令和	5	年	6	月	12	日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 認知症高齢者等の支援 ☐ その他 ()	☐ 社会資源の創設 (居場所づくり等) ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	社会的孤立をなくす地域住民との気づきの共有	
地域ケア会議から 見えてきた課題	①キーパーソンの不在。それに加えて、キーパーソンが、金銭を搾取している疑いがある等、役割を果たしておらず、キーパーソンが実質不在であるケースが目立つ。地域の中で本人や世帯を支えるネットワークの構築が必要である。また地域住民が地域に住み続けられるように人生をどのように送りたいのか地域住民が考える機会を提供し、どのような社会資源があるのか啓発活動をする必要がある。 ②判断能力の低下から曜日の認識やゴミの分別が難しくなり、ゴミが捨てられず、ゴミ屋敷状態になっているケースもあった。地域住民に地域の中につながる場の情報を提供すると共に地域の中で社会的孤立を防ぐネットワークの構築が必要である。	
対象	長居・苅田・苅田北地域全体	
地域特性	・高齢者が残存能力を生かして活躍できる場が少ない。 ・長距離歩行が難しくなった際に、安全に便利に移動できる手段がない。 ・階段のみやスキップエレベーター等、住み続けるに難しい住宅構造があるが、住み替えに抵抗があるばかりでなく、住み替え先としての施設にはマイナスイメージがもたれがちである。	
活動目標	支援の網からこぼれ落ちる人を減らすために地域の中でゆるやかな関係を築き、支援する。	
活動内容 (具体的取組み)	①②長居地域民生委員と包括、ランチ、コミュニティソーシャルワーカーによる茶話会(情報交換会)を毎月開催している。 ①②地域のために活動されている方をお招きし、地域講演会を毎月開催している。 ①ツルナリエは、認知症の方や要介護高齢者など、誰もが折り紙1枚で社会参加ができ、主役となって活躍する機会を創出できる取組みを実施している。 ②生活課題を抱えた住民が他の地域住民とつながり、関わりを持てる機会や場所が重要になっている。顔の見える関係づくりを目的に苅田北地域市営住宅の住民や周辺の地域住民を対象に誰もが参加できるごちゃまぜ食堂に社会資源の一つとして毎月1回、共同参加している。高齢者の孤立化リスクを低減し、生活課題を抱えた早い段階で関わりを持てるように顔を会わせて交流することができる新たな場を創る企画をしていく。 ②苅田・苅田北・長居地域でよろず相談会を実施し、周知活動により予防的アプローチを行っている。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	①②長居地域民生委員と地域包括支援センター、総合相談窓口 (ランチ)、コミュニティソーシャルワーカーによる茶話会(情報交換会)を毎月開催している。顔の見える関係を構築し、気になる段階から相談を頂き、対応・支援している。 ①②社会的課題をテーマに講演会を毎月実施し、専門職、地域住民との学習会の中で課題共有やネットワークづくりに取り組んでいる。 ②法人のデイサービス、地域密着型特別養護老人ホームの利用者、入居者の方がツルナリエのイベントに参加する。	
今後の課題	地域課題抽出でも明らかになったが、社会的に孤立し、キーパーソンの不在が見られることに加えて、コロナの影響で地域関係が希薄化したことによってケースの発見が遅れ、支援が長期化している。 そのことを踏まえて、苅田・苅田北地域にも気になる段階から地域住民による相談を受けて、支援につなげることができるネットワークを構築していく。	

※以下は、区運営協議会事務局にて記入	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和5年 7月 14日 （金）
専門性等の該当 （※該当個数は問わない）	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☐ 専門性 ☒ 独自性
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、区 地域包括支援センター運営協議 会からの意見等を記載。	・相談会に加えて学習の機会を継続しているほか、誰でも参加できる機会を意図的に設けている点がとても素晴らしい。 ・社会課題をテーマに、地域を巻き込んでいるのが専門職もつながりやすくよい取り組みだと思う。